

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2020年
1月1日
No.113

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

迎春 2020



「幸せ千支飾り ～子～」 峰山共同作業所 木工班制作

新年のしあわせ

理事長 青木 一博

新しい年を迎え、福祉会会員様はじめ法人関係者皆様方の日頃のご理解、ご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。

よさのうみ福祉会は、本年12月に設立40年を迎えます。

福祉会においては、法人の要として長年働いてこられたベテラン職員が、今後数年間で相次いで定年退職時期を迎えます。そこで、「法人第2次3カ年計画」(2018～2020年度)において、実践・事業・経営・運動のあらゆる面で次世代への「バトンタッチ」を念頭に取り組みを進めています。実践面では、全障研の月刊誌「みんなのねがい」2019年度下半期に、「働く、生きる、私らしく」をテーマに6回連続のレポート掲載の機会を得ました。

法人内に、「働く」「暮らす」それぞれの「レポート検討・作成委員会」を立ち上げ、管理者と中堅職員が混じり、自分たちの実践を振り返り、レポートにまとめる作業を通し、改めてよさのうみ福祉会らしさとこれからの大切にすべきものを確認し合っています。今秋には法人設立40周年記念事業の一環として「法人実践報告会」も計画しています。

福祉予算が削られ厳しさを増す財政運営、深刻な人手不足など、障害者福祉分野を取り巻く経営環境は誠に厳しいものがあります。が、長年の地域や行政、関係機関・団体との結びつきを大切に、『障害者権利条約を地域の隅々に』を合言葉に、仲間たちの夢や願いを実現をめざし今年も力いっぱい頑張ります。皆様方の益々のご健勝をお祈りします。



丹後圏域障害者雇用促進セミナー

こまち開設10周年記念事業を開催しました

障害者就業・生活支援センターこまち
センター長 石塚寿幸

昨年11月29日(金)セントラレー・ホテル大宮で企業・事業主の方を始め、行政・教育機関・支援機関関係者等、約80名の方々に参加していただき「丹後圏域障害者雇用促進セミナー」を開催することができました。紙面をお借りして、厚くお礼申し上げますと共にご報告致します。

企業向けのセミナーができないか

2010(平成22)年4月、障害者就業・生活支援センターこまちは、「就業と生活を一体的に支援するセンター」として、障害のある方の就業と定着のための支援、企業・事業主の方の相談窓口として京都府で7番目に開設し、早いもので今年4月に「開設10周年」を迎えます。

セミナー開催の発端は、去年3月13日(水)、丹後保健所主催の「働く障害者のつどい」の中で、株式会社カナモリの社長様が講演された際「企業・事業主向けのセミナーも、是非丹後で開催してほしい。」との要望をお聞きしたことです。

「金盛社長の要望」と「開設10周年」とを一つに結びつけてくれたのが、京都ジョブパークの方でした。「企業向けの話ができる人がいますよ」の一言をいただき、「こまち開設

10周年事業は、企業向けセミナーや！」と即決しました。



障害者雇用促進セミナー

10年間の関係づくりから

この10年間に、障害のある方の就職に関わっていただいた企業は、約330社あります。また、日常的に訪問や定着支援で関わりの深い企業は、約100社あります。まず、普段から顔と顔が見える関係のある企業への広報や周知を行いました。近年は、高齢者施設での清掃業務や介護補助の仕事に就かれる方や京丹後市内で製造業関連の企業に就職される方が多いのが特徴です。

また、丹後圏域や各市町の自立支援協議会の就労に関する専門部会とも連携し、各地域の特色を生かした広報や参加案内をしていただきました。

大切な3つのキーワード

当日のセミナーは、青木理事長が「よさのうみ福祉会の歴史とこまちの歩み」の開会挨拶を述べ、京都障害者雇用企業サポートセンター・実践アドバイザー谷垣信也氏(元オムロン京都太陽(株)社長)より「企業だからこそ意識すべきこと」と題し、「生産性を意識する」「遠慮と配慮の違い」「ちよつと丁寧なマネジメント」の大切な3つキーワードと、「障害のある人が働きやすい職場は、誰もが働きやすい職場である」とことを動画を交えて伝えていただきました。

次いで、峰山公共職業安定所・所長若林久人氏より「丹後地域の現状」と題し、「障害者雇用促進法と雇用義務」「雇用制度とその活用」「丹後地域の障害者の職業別就職状況」などをお話しいただきました。

この後、6つのグループに分かれグループディスカッションに移り、講演の感想や質問、障害者雇用されていて感じる疑問や悩み、これから雇用を進めたいと考えていること等を中心に、意見交換していただきました。その中での意見を少し紹介すると、「障害者雇用は一般の雇用と同じ考えで、業務改善と能力

開発も行う上で、ちよとだけ丁寧な対応が要ること」や「業務の切り出しでなく、その人に合った最適な業務に配置すること」などの意見が出されたり、「こんな人が居ると、事前に教えてもらえると、業務配置が考えやすい」と雇用に積極的な意見を出していただきました。

回収したアンケートには「障害者雇用制度がよく分かった」「得意なことと業務をマッチング」「どこに相談して良いのか分からなかった」などの記載があり、今後も企業・事業主の方との接点を広げ、障害の特性や理解の促進や仕事と求職者のマッチングなど、こまちが丹後の地域で果たす役割を再確認して、新たな年に踏み出すことを決意し閉会しました。



グループディスカッションも白熱しました

ろむ研修旅行の取り組み報告

多機能型障害(児)者支援センターろむ
支援員 三宅 由希也

きょうつされん 全国大会in愛知への参加検討

ろむの仲間には長時間話し合いの場にいることが苦手な方がいます。今年度のきょうつされん全国大会要項をみると複数のツアーがあり仲間の観光コースにはリニア鉄道館がありました。ろむの仲間は乗り物が大好きです。ホームのアナウンス、動く景色、体に伝わる振動など。楽しめる企画に参加する方向で、取り組みをすすめました。移動には仲間が大好きな乗り物に乗っていくことを考えました。

事前学習を念入りに

今年度の参加者は生活訓練「きらり」の仲間4名と生活介護「てくてく」の仲間5名、職員7名。「きらり」ではパソコン学習の時間を使って旅行に必要な持ち物、名古屋名物、帰路の昼食メニュー調べに取り組みました。「てくてく」では新幹線に乗っていく事を話題にあげ見通しには、みんなで行程と新幹線乗車時のマナーについて確認しました。

いよいよスタート

10月25日、あいにくの雨模様でし

新幹線に乗ってきました

たが、みんなの心は晴れ晴れ。親御さんや職員に見送られる中バスで出発。京都駅が近づいてくると仲間の目が輝き、背筋が伸びます。観光シーンで混雑する中、なんとか無事に新幹線ホームにたどり着き、行き交う新幹線にワクワクしながら乗車を待ちました。

新幹線いざ乗車

その場で待ちにくい仲間は階段を降りたり上がったたり、待つこと15分余り。来ました、のぞみ342号！さすが新幹線！車いす利用の人の専用個室はドーム型で快適、シートはフカフカ、走行はなめらか。みんなで軽食を食べながらリッチな気分を味わいました。名古屋まであつという間の30分。この旅行の目玉企画があつという間に終了。もう少し乗っていたい気持ちを持ち替えて下車。駅員さんの案内で在来線乗り場へ移動。シートには座らずつり革を両手で持ち立つ仲間、揺れを楽しむ仲間、緊張する仲間それぞれ。次の地下鉄では各自で切符購入。名古屋の駅もとても大きくみんな必死で駅員さんの誘導について構内を歩きました。

全国大会に参加

全国大会の会場はとても大きく、人が多くてびっくり。全国大会なら



全国大会 合唱構成
「高く飛ばそう」ステージ

ではの久しぶりの出会いもあり、ほっこり笑顔になりました。せっかく名古屋に来たのだからと道中で名古屋名物「手羽先」も試食。ホテルに向かう途中、名古屋城ライトアップをしばし車中見学。その後なばなの里へ寄り道。壮大なイルミネーションに一同感動!!光のトンネルを通して記念写真。時間があればもう少し楽しみたいイルミネーションでした。

ホテルでは美味しい食事に舌鼓。サービズドリンクにビールを注文し楽しむ仲間、きれいに盛り付けられた刻み食に感動の職員。夕食後はほっこり温泉につかり疲れがふっ飛ばす♪仲間と布団を並べうきうきして眠れない、そんなひと時も格別でした。

2日目はナガシマスパーランド、リニア鉄道博物館へ。アトラクションに乗って大興奮。ひろーい敷地を力いっぱい走る姿もありました。鉄道の模型も立派でどれも大迫力で



豪華！夕食タイム



なばなの里 ハイチーズ！



光のトンネル

した。たくさんさんの思い出ができ、研修旅行という経験をすることで絆も深まったのではないかと思います。何よりもみんなの笑顔がキラキラ輝いていました。

研修旅行後も写真を見て「楽しかったね」と思い返しています。

「今度はどこに行こうか。次はどんな乗り物に乗ろうか。」「新幹線の次は飛行機に乗っちゃおうかな」など次の研修旅行への夢は大きく膨らんでいます。次もみんなが楽しめる研修旅行に行けますように。

みやづ作業所30周年、すまいる・伊根の里10周年記念イベント

すまいる

支援員 若月洋司



青木理事 あいさつ

2019年11月15日、みやづ作業所30周年、すまいる・伊根の里10周年を記念し、みやづ歴史の館文化ホールにおいて、記念イベントを開催いたしました。

イベントは、青木理事長、「宮津・伊根地域の作業所を支える会」の吉田会長、「家族会」の大山会長による歴史の振り返りや、施設への思いなどを交えた挨拶で始まり、各作業所1人ずつの利用者さんからの、作業所で頑張ったこと、今後の抱負発表へと続きました。また宮津・伊根エリア30年の歴史を綴るスライドでは、みんな食い入るようにスクリーンを見ながら、「あれは○○さんや」「なつかしいな」「みんな若いなく」などの声が聞こえ、客席では笑顔が溢れていました。

歌のステージでは、みやづ作業所の利用者である中西厚子さん作詞の「働けるんです私たち」を最



歌発表

初に歌いました。♪どんなに障害重くても働けるんです私たち♪ほら見てごらん袋はり箸入れだつてこのとおり♪で始まるこの歌を聞いていると30年前の情景が浮かんできます。

続く「陽気に生きようこの人生をさ」「パプリカ」では、笑顔で楽しく歌い踊り、「365日の紙飛行機」では最後に全員で希望の紙飛行機を飛ばしました。

このイベントを通して、利用者さんたちの「笑顔」が職員の「仕事のやりがい」になっていると思いました。今後も地域の中で笑顔と活力に満ちた事業を展開できるように、職員一同、力を合わせて取り組んでいこうと思います。

大盛況で、ありがとうございました！

野田川共同作業所

管理者 杉本 実信

12月22日、野田川わーくばるにおきまして、『野田川共同作業所40周年・夢織りの郷20周年記念企画』を開催することができました。

この日のために1年以上も前から企画内容の検討を始め、実行委員を選任し、今年度より企画成功のための本格的に動きを作る会議を何度もおこなってきました。仲間のステージ発表のため各事業所では毎日練習を重ね、合同練習もおこないました。

当日は、13時よりオープニングステージ。地域の方と利用者による大合唱、ステージいっぱいには歌や踊りを披露。その後与謝野エリア各事業所や利用者の様子を映像で見ていることができました。

そして、きょうされん40周年記念映画「星に語りて」を上映。1回目は事業所関係者も含め380名は入れる会場が立ち見が出るほどの大盛況でした。2回目は16時30分から少し遅めの時間帯だったので、お客さんの入りが心配ではありましたが、60名弱の来場がありました。



365日の紙飛行機 ♪ 飛んでみよう ♪



お越しいただいた方からのアンケートもたくさんあり、読み返す中で、歌声大合唱では「みんなの楽しそうな、一生懸命な、すてきな歌声でよかった」という声、映画では「当時のニュースで放送されていない障害者や高齢者の実態を知ることができてよかった」など、数多くの感想をいただきました。

この地域で何時起こるかかわからない災害に対する啓発と共に、地域みんなが助け合い支え合うことが大切だということを、今回お越しいただいた方々と共有できたと思います。

野田川共同作業所40周年・夢織りの郷20周年記念企画

法人職員事業所交換実習に参加して

実習を通じて考えたこと

障害者相談支援事業所結
相談員 故金 佳代子

10月8日、教育研修委員会主催の「交換実習」があり、私は「リフレかやの里」で実習をおこないました。私自身の実習の目的は、現場での支援や環境調整と個別支援計画との関係、職員間の認識の共有、集団の中での子チュラルな支援等を体験することでした。

午前は清掃班に入り、「浴場」「施設の外回り」「宿泊棟」の清掃を利用者の方と一緒にこない、熱心で丁寧な仕事ぶりに感心し、その思いを尋ねました。「私達は、宿泊のお客様がなくても、来られるかも知れないと思い一生懸命やっている。」だから「この思いを知ってほしいし、一生懸命集客努力をしてほしいと職員に伝えていきます。」



浴場清掃

午後からは、ビニールハウスで唐辛子を房から切り取る作業をされている農耕班に合流し、一緒に作業を行いました。

一日の実習を終え、私自身も集客について考えてみました。宿泊業界の厳しさは耳にしており、福祉会らしさや、強みを活かすために、客層の一部を支援の必要な方にすれば対人援助職として、介護・介助のノウハウを活かすことになり、旅行を諦めていた障害の重い



ビニールハウスにて

方も宿泊でき、更に静かな環境を活かし過敏な方にもリラックスできる場を提供できます。また、職員の強みに着目し、生演奏のクラオケ付きランチ企画や、美しい自然や夜空の星を観察するプランも提供できます。福祉のプロだからこそできる、利用者を主人公にできた福祉会だからこそできるホテルというのもおもしろい、と考えることができた実習でした。

実習で得た新しい発見

すまいる
支援員 濱中 哲也

9月上旬のある会議でのことです。「交換実習に行ってみないか？」すべては管理者のこの一言から始まりました。「でも、現場抜ける」と他の人に迷惑かかりませんか？」と問うと、「違う場所を学ぶことで新たな発見がある。君の今後のためや。」と、強く言われ少し押し切られた感じで行くことが決定しました。未熟者の私はこの時に「交換実習があく。しんどいなあ。」と正直困惑したことを覚えています。

実習当日は10月8日。派遣先は「与謝野町障害者相談支援センター結」でした。実習のはじめに管理者、主任から事業所の業務内容の説明と実習のスケジュール説明をしていただき、その後の実習はA型事業所の「スミレ」の見学と「ハウオリ」の見学、ケース会議出席へと続くことに。ふだん見ることもないA型事業所での見学では、一生懸命に働く仲間とそれを支援する職員の姿から、同じ障害者福祉の現場でも私自身の職場とは全然違う内容なんだと、とても感銘を受けました。

また、今実習では内容の膨大さに「自分を受け入れるためにこんなに

丁寧を考えていただいているなんて」と素直に嬉しくなると同時に「しんどいなあ」と思った自分が情けなく、少し後悔しました。

正直なところ、行くまでの経緯と気持ちの中では紆余曲折ありました。しかし私の通常業務とは違う相談支援業務を見学することで、仲間たちに地域での豊かな生活の保障と実現を目的に多種多様な業務を行うよさのうみ福祉会の「意義」と「意味」を少し学べたかと思っています。そして、このような大切な取り組みが今後も活発におこなわれ「よさのうみ福祉会の更なる発展」につながることを心から願います。ありがとうございました。



受け入れ側から

与謝野町障害者相談支援センター結
主任 坂根 由美子

濱中さんはスーツでピシッときめてこれられ、礼儀正しくていいいな言葉づかいで、きつと相談支援というところで緊張して来ていただいたのかなと思います。他法人の施設を中心にふだん知ることのないところを見学していただき、事業所の種類や給付の系統などいろいろ知っていただけたのではないかと思います。とても素直に聞いてもらったので今後の役に立てばうれしいです。(談)

きょうとさん第43次国会請願署名募金運動が始まりました

きょうとさん常任理事
峰山共同作業所
管理者 山口 高志

♪おとうさんおかあさん 先生
地域のひとたちと 署名あつめて
要求にいった♪2018年に開校
50周年を迎えた与謝の海支援学校
で、開校当時に作られた「ぼくら
の学校」の一節です。♪どんなに
障害が重くても入れる学校作ろう
と 僕も手紙を書きました♪と歌
は続きます。また、♪あの子がだ
いじにされんかったら 僕かてだ
いじにされないのやで♪と、当時
生徒だった方の素直で切実な思い
も歌われています。障害のある子
どもの願いを真ん中に据えた養護
学校づくり運動は、その後、成人
期を迎えた障害のある人の働く場
を求めた作業所づくり運動に引き
継がれていきました。♪1枚の署
名に願う一杯こめて 誰もが思っ
ている幸せなまち作ろう♪わたし
たち、よさのうみ福祉会とともに
京都北部地域で作業所づくり運動
を進めてきた福知山共同作業所で
作られた歌、「なるまでは」の一節
です。

どんなに素晴らしい実践を事業
所で取り組もうと、障害のある人
に対する無知や偏見が大勢を占め
る社会では、障害のある人が地域
でいきいきと暮らすことはできま
せん。わたしたちは、障害のある

人々の「仲間と一緒に働きたい」
「生まれ育った地域で安心して暮ら
したい」といった決して贅沢では
ないあたりまえの夢や願いの実現
に向け、要求運動をすすめてきま
した。現在、全国各地で取り組ま
れているきょうとさん第43次国会
請願署名・募金運動はわたしたち
のもっとも大切な活動の一つです。
障害のある仲間も署名を手に街頭
に立ち、地域を回りながら自身の
言葉で訴えかけます。♪呼びかけ
あえば 笑顔がcaえる そんな町
を♪(仲間が大好きな歌「そんな
町を」の一節)そんな、一人ひと
りが大切にされる社会をめざし、
わたしたちは、時には優しく時に
は力強く、仲間とともに呼びかけ
続けます。



ショッピングセンター前での街頭署名運動

夢織りの郷「家族会」主催 成年後見人制度学習会

夢織りの郷 つむぎ
管理者 池田 和裕

「家族会」事業の一環として昨年
より学習会を企画、実施しています。
昨年は(公社)成年後見センター・
リーガルサポート京都支部より中村
司法書士を派遣していただき、成年
後見人制度について内容や種類、申
立て手続き、後見人の職務、主な財
産管理、主な身上監護、後見人が就
任していないと困ることについて学
びました。

今回は与謝野町の「出前出張講座」
を利用して、与謝野町成年後見制度
利用支援事業について、成年後見制
度利用促進の動き、今後の方向性、
日常生活自立支援事業について等、
学習を深めました。

家族から出された具体的な意見、
質問の特徴的なところを抜粋しま
す。

Q: 親族が後見人を請け負っている
ケースはあるのか?

A: 与謝野町内で親族が後見人を請
け負っている中で、親・きょうだい
が請け負っているケースは現在は無
い。ただ、息子・娘がしているケー
スはある。親族が後見人になった場
合には相続問題等、難しい面がある。
Q: 親族が後見人をする時・専門職
が後見人をする時のメリット・デ
メリットは?

A: 親族が後見人を請け負った場合、
費用は抑えられるが専門的な知識に
欠ける面がある。専門職は知識があ
るが、費用がかかる。

Q: 定期預金は後見人の方に依頼し
て解約後、普通預金通帳へ移動する
ことができるか?

A: 基本的には後見人の自由にはな
らない。家庭裁判所が本人のために
必要と判断すれば可能である。

Q: 遺産相続は受取人がいない(特
定できない)場合はどうなるのか?

A: 家族関係等を調べた上で遺産相
続者(受取人)がいない場合は国に
返還することになる。

Q: 本日参加している家族は与謝野
町以外(宮津市)の方が多くが問い
合わせるのは該当市町なのか、それ
とも与謝野町でもいいのか?

A: 該当市町(宮津市)の方は与
謝野町へ住所を移していても基本
的には該当市町(宮津市)へ問い
合わせる。しかし、与謝野町へ問
い合わせていただいても該当市町
と連携を持つて対応する。

このように、高齢化が進む保護
者にとつては切実な質問が多く出
されました。そして今後も少しづ
つ理解を深め、障害を持つ本人に
とつて将来不都合が生じないよう
に対処していきたいと感想を語っ
ておられました。

「親のつらさ」

『吉田家の環境大臣』

野田川共同作業所 利用者の父 吉田弘幸

もうすぐ34年になります。我が家に3人目の二男が誕生しました。

検診で障がいが見つかり、自閉症とわかり、私たち夫婦は大きなショックを受け、どうしたら良いのか、どう接したら良いのか悩みました。自閉症に対する知識が無く不安でいっぱいだったのを覚えています。後に自閉的傾向と発達遅滞であるのがわかりました。

小さい頃からこだわりが強く、仕事場の糸の管理をしたりしていました。本人との関係もなかなか上手くいかず大変な時期もありました。小二の時に与謝の海養護学校に転校しました。卒業し野田川共同作業所に行くようになり、その間にもの凄く成長したと思います。

こだわりの方ですが、家のゴミ処理で分

別・洗浄・ゴミの出し方などはパーフェクト。家の掃除(自分の気になる所)、食器乾燥、プラゴミの洗浄など一生懸命してくれています。妻は「あの子に任せておけば大丈夫、ちゃんとしてくれる。」と大変ありがたいようです。

自分の楽しみも年間の計画を立て、何月に何処に行くのか何をやるのかを決めています。特にプロ野球観戦は楽しみにしています。

私たち夫婦、兄弟弟と共に一緒に付き合っている、本人もパニックも無く上手く家庭が廻っているなど安心して現状です。これから仕事・家事に頑張ってください。『我が家の環境大臣 ありがとう!!』父より

癒やされます 猫のいる暮らし

広報担当者から原稿の依頼がきました。「仕事のこと以外でお願いします」とさうつと頼まれた。仕事以外?何を書いたらいいんだろうと悩んでいたら、またまた広報担当者に「猫ちゃんのことでいいんじゃない?」(広報担当者も私も猫好き)と言われ、我が家の猫のことを書きました。

リレー随想



夢織りの郷つむぎ 主 任 樋口 智津子

広報担当が変ったせいか、オシッコトラブルが何度かあり、獣医さんから「餌も変えてください。」と言われ、高い餌を食べております。外に出すと交通事故が心配なので、部屋の中で暮らしています。(そのせいか、ほとんどの人に「この猫でかかない?」と言われます。)

我が家には、推定9歳になる茶トラのメス猫がいます。(動物病院から引き取りました。岩滝口駅に捨てられていたらしいです。7年前に母が脳梗塞で入院するまでは、舞鶴の田舎で外を走り回っていました。母が倒れたとき、すぐに主人が実家に猫を保護しに行きました。(主人も結構な猫好きなのでいつになく行動が早かったです。その日から我が家の一員になりました。)

私は、猫がいて、猫が癒やされています。猫が癒やされているのか? 10月に主任になったばかりで、慣れない仕事に心身ともに疲れている私の横に寄り添ってくれるメルちゃん。そばでよく眠っている姿を見ていると、イライラしたり悩んでいることが小さいことのように思えます。明日も笑顔で働けそうな気がします。次回はずまい。 支援員 濱中 哲也です。

「寄付御礼」

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。 2019年11月3日、2019年12月12日 (順不同・敬称略)

日下部みはる	渡部 昭男	足立千鶴子	岡野 富治
蔭山 保夫	西原 俊朗	木下 博美	上羽 香
渋谷 晴久	茂籠 和枝	小山 正雄	中西 宏昭
佐々木 稔	長島 淳二	立川 智浩	東 理代吉
多賀野明美	中辻 修美	細見 和則	渡辺 和美
千賀 幸子	西川 悟子	樋口智津子	品川 稔
田中真智子	徳田 隆男	森本 照教	西井 利治
清水 雅子	中村 孝義	吉田 律子	馬谷 啓子
畠山 伸江	沖上みゆき	井上 芳子	田揚智代子
三井 孝治	河岸伊都子	青木 一博	伊達 順子
小出 治男	坂根由美子	小西 彬則	久古 直子
新宮加枝子	長谷川育匠	小谷美和子	拝野 節子
黒田 隆男	谷川 宏	多田 薫	浜田 正人
山本喜美枝	藤村 政和	上 衛	西脇 弘子
太田 貴美	尾崎 浩一	梶谷 恵吾	西脇 康太
阿路川祐子	今井 芳之	山添 幸男	渡辺 信一
山崎 住男	北風 雅雄	多田たきの	梅垣 光子
椿 京子	永吉 俊彦	星 幸敏	倉橋 香子
真下まゆみ	梅田 洋一	星 美枝子	加賀谷清美
川村 康好	谷垣 吉信	上 幸子	松本 真美
金村 直人	上杉佐智子	新田 浩	山下美佐子
廣谷 恵子	伊藤 直美	山本千代子	内田真奈美
新庄久美子	和田 順一	小西江里子	岡田 真弓
滝 正導	藤原さゆり	黒田 学	寺本三四子
滝 やよる	松井 沢美	白須 宗明	糸井みよ子
杉原 努	井上 直樹	日下部敬子	糸井みよ子
貫名 英功	大西 祥之	田中 宏美	糸井みよ子
山上 正博	西垣三衛子	山副みち子	糸井みよ子
高岡 弘安	玉岡 泰久	福本みゆき	糸井みよ子
大泉 邦暉	山崎 清	安藤シゲ子	糸井みよ子

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

丸中観光バス 株式会社

花のみのりの苗づくりやあひるの時間を応援したい

ワークセンター花音

支援員 加賀谷 清美

ワークセンター花音
園芸クラブを始めました

花音の前庭の花壇はここ数年手入れができず、雑草だらけの状態になり、喫茶のお客様にも目につくところ

ろなので気になっていました。そこで、花音の利用者に土を触ることやお花や野菜を育てることで気持ちのやすらぎを感じてほしい、花壇づくりの作業を通じてたくさんの方とつながりを持ちたいという思いもあり、9月から清掃班を中心に園芸クラブを立ち上げました。

清掃班の作業の合間に土を耕したり、お花の苗を買いに行ったりコツコツ準備をしました。園芸や野菜作りの得意な職員の手や知恵も借りて、基礎を習いながら、他の班のお花好きな利用者全員に協力してもらいました。

地域共生コラボ企画・加悦こども園の年中そごう組さんといっしょに

地域との交流もできればと思いい加悦こども園さんに花壇づくりを

お誘いしたところ快諾していただき、11月5日に年中さんといっしょにお花を植えることができました。

こども園からはチューリップの球根を持って来られ、花音ではパンジーなどの花の苗を用意しました。秋晴れのさわやかな日に、子ども達のかわいい声が喫茶花音の前庭に響き、花音の利用者も笑顔でとてもやさしく子どもたちに教えながら、楽しい時間を過ごしました。

前の道路に面した目立つところにこども園の名札も立て、それを見た地域の方からは「きれいな花が咲いてるな」「ええのができたなあ」と言っていたきました。

春には子ども達の植えたチューリップが咲きます。かわいなお花をぜひ見に来て下さい。喫茶花音では春の野菜を使った、春ランチも企画しています。お子様向けのメニューもご用意させていただきますのでぜひお立ち寄りください。



(タイトルは4法人の事業所名を読み込んでみました：わかりますか?)

着物リメイク商品を販売しています!

与謝野町男山地区で営業をしている「カフェ・ショップ花鈴」です。着物処という与謝野町の土地柄をいかし、皆様より提供していただいた着物・帯・着物リメイク商品を販売しています。

カフェでは、みなさまの集う場所として活動をし、月に2回月曜日(第一、第三)に食事会を開いています。多くの方々に利用していただき、お話ししながら食事をする事で元気の源にもなっています。

また、折り紙教室・クラフト教室など月に1度いろ

カフェ・ショップ花鈴

いろな教室を開いています。参加された方々からは、「良い作品ができた」「難しかった」等々思いを聞かせていただきます。

来店された際には利用者の方々が元気に「いらっしゃいませ!」とお迎えいたします。ぜひ一度ご来店くださいませ!

- ◆定休日のお知らせ 毎週/土曜日
- ◆営業時間 10:00~15:00
- ◆お問い合わせ カフェ・ショップ花鈴 TEL0772-46-2110

年末年始休日のお知らせ
12月28日(土)~1月5日(日)

編集後記

新しい年を迎え2020年は「どんな年になるかな、こんな年にしたいな」と思いを巡らしておられるのでないでしょうか。「東京オリンピック」が7月に、「パリリンピック」が8月に開催され、日本の今年の夏はオリンピック・パラリンピックの話題で一色になりそうです。一方よさのうみ福祉会に目を向けて見ますと、法人設立40周年の大きな節目を迎えます。福祉会では「40周年記念事業」として、「実践報告会」「記念企画式典」を開催、さらに「プロモーションビデオ作成」「ロゴマーク作成」を考えています。皆さんはどんな1年にしたいですか。わたしは少々疲れ気味ではありますが(笑)「明るく元気に仕事に取り組んでいくね、私も頑張ろう」と皆さんから思ってもらえるようなそんな1年にしようと考えています。今年一年が読者の皆さんのよい一年になりますように。(お)